

ドナー腎採取術臓器別項目

- きわめて迅速、確実、安全、十分な場合：5点
- 不十分な点があり、手術操作の延長や出血、リスクのある操作が行われている場合：3点
- 操作に明らかな問題があり、そのために何らかの臓器損傷や出血が生じたり、危険な操作が行われているが、何とか克服している場合：1点
- 操作に明らかな問題があり、許容しがたいと考えられる場合：0点

(1) 腎莖部周囲に十分広い術野が展開できている。

・後腹膜到達法では、腸腰筋にそって Gerota 筋膜を腎上極から骨盤内まで十分広く切開している。

・経腹膜到達法では、結腸、膀胱、脾臓を大きく脱転して腎莖部が十分露出されている。

(2) 尿管の剥離を愛護的に行い、尿管血管を損傷するおそれのない操作である。

・尿管損傷が生じたら地雷落第。

(3) 腎動脈を、動脈のスパズムが起こる恐れのない手法で取り扱い、剥離できている。

・腎動脈損傷が生じたら地雷落第。

(4) 腎静脈本幹およびその分枝を適切に認識し、損傷の恐れなく剥離、切断できている。

・腎静脈損傷が生じたら地雷落第。

・副腎静脈、性腺静脈、腰静脈から出血したら0点。

(5) 腎周囲の剥離を、腎実質を過度に圧迫することなく、適切な剥離面で行っている。

・明らかな腎被膜損傷が生じたら地雷落第。

(6) 腎上極と副腎との間を適切なラインで剥離、切断し、副腎損傷を生じていない。

・明らかな副腎損傷が生じたら0点。

(7) 腎動脈と腎静脈を適切な手法で安全に切断している。

・腎静脈、腎動脈が短かすぎると判断される場合は適宜減点。

・腎動脈を金属クリップ、ヘモロックだけで処理している場合は0点。

(8) 温阻血時間が適切である。

・腎動脈が遮断されてから腎が術野から消えるまで3分以内は5点。(用手的に取り出すため内視鏡で確認できないときは、腎動脈遮断から腎静脈切断まで2分以内は5点。)

・3分から4分は3点。(用手的では2分から3分は3点)

・4分から5分は1点。(用手的では3分から4分は1点)

・5分を超えると0点。(用手的では4分を超えると0点)